

研究報告

近畿大都市圏における土地利用の変化に関する一考察

(抄録)

井上智之 (公益財団法人尼崎地域産業活性化機構)

土地利用の現況とその変化を定量的に捉えた既往研究は少ないのが現状である。本研究では、近畿大都市圏（近畿圏整備法の既成都市区域及び関連整備地域の一部）を対象として、2001年から2008年にかけての土地利用の現況及び変化を市区町ごとに把握した。分析に使用したデータは国土地理院『数値地図 5000（土地利用）』である。このデータの特長は、第一に、土地の形状、位置、用途（15分類）の情報を持つことである。第二に、GIS（地理情報システム）を使用して、市区町の情報を付与することで、市区町ごとに用途別の面積を算出することが可能となり、都市間で土地利用の用途別面積の比較ができることである。第三に、異なる年次の地図を重ね合わせることで、用途の変化を定量的に把握できることである。

紙幅の都合上、分析の結果の一部を示しておく。近畿大都市圏全体での土地利用変化をみると、「田」「工業用地」が減少して「住宅地」「商業・業務用地」の増加がみられた。また、都心部にあたる大阪市中央区を抽出してみると、「工業用地」「低層住宅地」が減少して「中高層住宅地」の増加が見られ、土地の高度利用が進展する様子が窺えた。